

七月二十二日夕刊
(朝夕併せて八頁)

國教派政府多專

其殖民地間の政治經濟聯絡
 に就きて、精確切實なる調査及び
 報告を擴張し、海外通商

數訓を與へ、遂に教育に於ては
「勝敗の鍵は難難と船なる諺言を
内の船主に一億六千萬法

十億馬克の經費を國庫より支出し、
以て大に獨逸艦隊の復興を圖らん

この内部には多少の経緯伏在し居るものゝ如きが若し雪山金藏の發見を以て、
○國選理事長歸京

鐵道技師は武市に來て、
占領を計畫す之れを北條

悟道軒圓玉口演

土の人数、風氣々々小太郎を辱
罵し、此事を辱し、天童へ著し、スガに
此事を辱し、天童へ著し、スガに
此事を辱し、天童へ著し、スガに
此事を辱し、天童へ著し、スガに

山形へ参れの上意、茲て天童城
の兩入系内の下に一門山形へ馳
込んで参りまして、城内へ滲し
出羽守殿は、自ら通つたしました
此時天童は、初手守りとしたま
で武勇を好み、大薩摩陣線は最
家御代指へ相成つて居る。其作
藏の意に依つて上京一門の人々が
お目通り、出ましたらから太宰
府守候も御儀勤めなす。出處を
密名は承知いたして居る。」上京伊
勢守取立の肥後連主王或は八天狗
など、難れる間々、同門の義に
依つて家願勝敵、助力をして、首
尾よく本懐を遂げせしは近衛親
もしき嫡子、また太郎は兄兒の
執にしてまた佐竹の遊逆なる御
正統門を譲取りは孝弟二つな

るから、問ひあつて其恩を謝
直感に及ぶ、何じつても出羽
國の大領主として御歳百四五十
石に餘ること最も、の事であ
りますから、其境内の結構なる事は
ふばかりもない、其上家来には
當十千圓、延福寺尊主、谷宿相模
氏家尾張守、小泉掃部頭、志村九郎
御、關前守、木下龍雄なるを初
として何れもや勞務したる老臣

ある之れは皆一境の主である
すから、隨分と稱する家は其頃
杉最上ばかり、伊達や佐竹は
こゝにはいぬ、西園は大内この
家であります。義経公の嫡男を
に有命であつたり、家來の時
に召されて之れは宛がふ家來の
で當分の内上京一門は城中に留
つて居る。」此は伊達康

乳牛
時珍
御用
岡野牧場
電話一〇六九

京城本町
電話一〇五〇
壽館
各派聯合內京淨土宗大會

[illegible]

常とく人ひと用もち二に施ほ行ぎやうす

[illegible]

反歩を試育地として、苗木を養成

[illegible]

金談錄組等萬吉物に勝の日 ▲一白
判よき 日轉居旅行入學名弘金談求勝

[illegible]

忽十版

高井

院長
副院長
千葉醫學士
松崎正珍

診療室自午前九時至午後九時
日曜祭日自正午迄午後五時止
正六位勳四等功五級
高井貞治
松崎正珍

京成本町二丁目(露筋前) 電話二一六番

ゼーノラブにけっか

効力の卓絶と
安價美味を特色
とする

ブライゼは陸軍衛生醫士清水如水氏が多年諸大藥廠の藥劑を比較實驗の成績を研究の上發明した、尤も理論的の製劑にして、浮腫性、心臓障害、衝心等一切、脚氣に對する効能が尤も確實であるのみならず、血氣を養發し、神經衰弱を治するの効力及び皮膚症、腫瘍の効力も非凡にして、又便秘に用ひたるは大便秘劑、或は瀉劑等の如き後害を殆ど經驗に決通するの良作用あり、として藥製劑中尤も聲價を博しつつある最新藥なり

前の大阪府兵工廠醫長
陸軍二等軍醫正醫士島田乾三郎實証は、大阪府上野の臨上實験の成績を調査の結果、七日以内の服用にて治癒せるもの最も多數を占め、七日以上を要し、ブライゼの他藥を併用せざれば、平均治癒日数は僅か十日四分にして、又療効力の強大なることも認めたることを、大正四年の醫學博士町三子醫學士白江内科院長も、悉く同様の成績を得たる旨、大正六年四月至五月の醫學博士、醫學附近近視學、大正醫學藥石病醫等に發表せられたり

全國の藥店にあり
定價
一ボンド入、約十月乃至十五日分
九、九錢半ボンド入、五十錢邊送料、大阪内地八錢邊、遠寄廿錢、例、鮮三錢以上一罐毎に四錢を
大坂市北區南内町丁目

元賣發
三才商會
振替六號、四四〇一番
特約店
釜山、大黒南徳堂、中井敬洋
堂、國富藥房、京城、山岸藥店、新井藥房、宮本千粒堂

ホシ
胃腸薬

來れ夏！來れ病魔！
イザ イザ イザ

胸	腹	飲	食	消
痞	痛	過	慾	化
一	吐	食	不	良
の	瀉	過	進	の
時	の	時	の	時
二	溜	胃	胃	胸
日	飲	擴	腸	の
辟	の	張	力	苦
の	出	の	夕	し
時	る	時	ル	き
	時		の	時



星製藥株式會社

定價
一五廿
十
圓錢錢



午前十時より大蔵省に招致せ
神野理財局長より政府は今回

履行を受くべき場合に於て現債權者の故意又は過失に依り其債權の履行を不能ならしめたるときは現債權者は我政府に對し損害賠償の責に任ずること

るものは、横濱正金銀行より額面
に支拂はれたく又(二)を受けた
者に對しては將來帝國政府が爲
に附き九十五圓五十銭の現金

當時國庫證券は約元金六千七百五十萬圓に利拂に七割額六千八百五十萬圓に達した。

○對西伯利貿易